

平成21年度 第2回川崎市教育改革推進協議会

- 日時 : 平成22年1月25日(月) 15時～17時
場所 : 明治安田生命ビル2階 第1会議室
出席者 : 小松委員、田中委員、大下委員、山田委員、宮嶋委員、堀切委員、小原委員、
村上委員、渡邊委員、石垣委員、木場田教育長、伊藤総務部長、
金井学校教育部長、鈴木教育改革推進担当参事
欠席者 : 高木委員
傍聴者 : なし
司会 : 高梨企画課長

[配布資料]

- ・第1回教育改革推進協議会摘録
- ・かわさき教育プラン第2期実行計画
- ・かわさき教育プラン第2期実行計画(概要版)
- ・かわさき教育プラン第2期実行計画重点施策で展開する事業の主な取組
- ・川崎市教育改革推進協議会委員名簿

1 開会

- ・本協議会が公開会議であることの報告
- ・委員あいさつ(渡邊委員)
- ・教育長あいさつ

2 協議題

- ・かわさき教育プラン第2期実行計画重点施策で展開する事業の主な取組(説明)

(委員からの意見・事務局からの回答)

- ・学校では理科支援員の配置は助かっている。担任が実験をする上で、準備や片付けなど全てを行っていたが、理科支援員が配置されたことによって、分担することができた。また、準備や理科教科指導だけでなく、児童生徒の生活面においてもいい影響を与えている。
- ・経済対策で大型テレビを設置することについては、置き場所に困るかもしれないが、プロジェクターやインターネットなどと連携し、活用ができると期待している。
- ・新学習指導要領の移行に向け、中学校校長会を4地区に分け、4つの研究会を設けて、移行の準備を進めている。
- ・新学習指導要領の武道の指導については、どうなっているか。

- ・(事務局) 計画的に防具の購入を進めるとともに、外部指導者の導入などを進めている。
- ・外国語の導入と国語のリンクが見えない。日本語の文法が判らないのに、英語の文法がわかるのだろうか。
- ・(事務局) 小学校の英語活動は、基本的には文法から入るのではなく、コミュニケーションや言葉から入り、外国文化に触れ合うようにしていく。小学校の教員は、今まで英語を教えていなかったもので、基本的にALT(外国語指導助手)と一緒に英語活動をしていく。本格的な英語教育は、中学校に入ってからだと考えている。
- ・小学校4年生以下でも英語活動は行っているのか。
- ・(事務局) 学校によって異なるが、総合的な学習の中で行っている学校もある。
- ・英語活動を行う上でALTを全時間に配置していただけると助かる。ALTに全部任せるのではなく、教員とチームを組みながら英語活動を行っている。
- ・武道や伝統芸能については、研修・学校間連携・地域人材の活用などで進めていただきたい。
- ・伝統芸能については、地域に琴の先生などがいる学校は、地域人材の活用で授業を進めている。
- ・地元のお囃子を小学校で説明し、演奏をした。そして質問時間(30分位)を設けたら、子どもたちから質問が絶えなかった。地域と一体となって伝統芸能を授業で行っている。
- ・「共生*共育プログラム」を実施することで、他者のことを考えたりして、子どもの気持ちが育ってくるのではないかと。また、親御さんに対しても必要ではないかと考えている。
- ・「共生*共育プログラム」は、楽しく作業を行えるようになっている。人とのコミュニケーションができるツールになっている。子どもたちにぜひ、やらせてみたい。
- ・「共生*共育プログラム」は、これまでの川崎の持っているノウハウを活用して実施して欲しい。
- ・インターネット問題については、3年前から学習会を実施している。来年度は川崎市PTA連絡協議会と総合教育センターと一緒に学習会を実施したい。「共生*共育プログラム」については、児童生徒だけでなく親御さんにもやっていただきたい。さいたま市は、保護者向けに親子支援プログラムも作成している。

- ・自分づくり、友だちづくり、仲間づくりは、とても大事。子どもの頃から取組んでいて欲しい。
- ・学校において携帯電話についての指導はしているか。
- ・(事務局) 指導時間はあまりないが、インターネットを利用する時にマナーを教えている。また、携帯電話の危険な面については、外部指導者などにより指導を得ている。色々な形でモラル教育について実施している。
- ・教員は何かと多忙である。次から次へと課題が出てくる。川崎で多忙化対策として何ができるかを追求して欲しい。
- ・色々な施策をやる上では、教育はお金がかかる。将来への投資なのでお金をかけて欲しい。
- ・教育は新しい課題がどんどん増えている。事務を減らすだけでなく、研修なども減らしてもよいのではないか。減らすことをもっと考えた方がよい。
- ・(事務局) 学校業務の効率化については、来年度の初めには教員に1人1台のパソコンを配置するので、そこからが情報化のスタートだと考えている。今後は、便利なソフトを導入し、業務の効率化を図っていきたい。
- ・1人1台のパソコンは、使いこなせれば大変便利である。具体的には、通信表の所見欄の記入方法がパソコンでも可能となった。これは大変便利になった。
- ・パソコンで進路指導関係の資料作成が便利になった。事務が軽減されている。教員でパソコンを使えない世代は、ほとんどないのではないか。
- ・(事務局) パソコンを導入すれば、全ての事務がすぐに効率化が図れるとは思っていない。事務の軽減については、教員や事務職員の分担も含め、大きな課題である。
- ・事務処理で大変苦労しているのは、お金を扱う事務である。これはストレスがたまる事務である。この業務だけでも何とかならないかとの意見がある。
- ・学校支援センターは、マクロとミクロの2段がまえで考えていった方がよい。
- ・学校支援センターへの要望として、学校ボランティア保険をしっかりと検討していただきたい。

閉会